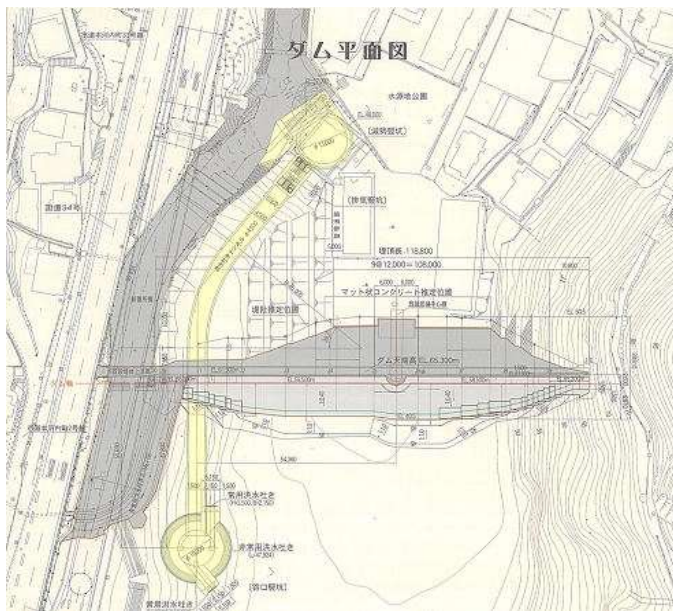


# 日本初の技術により堤体を保全

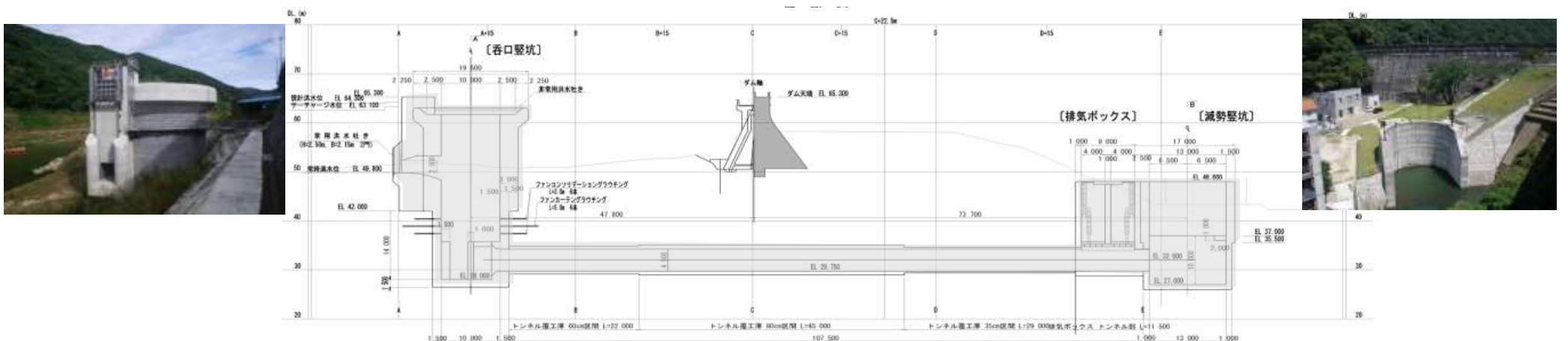
本河内高部ダム・低部ダムについて、明治年間に建造された歴史的に重要なダムを保全しながら、長崎大水害を受けて、洪水調節機能を追加した新たなダムに生まれ変わりました。

## 本河内低部ダムの再開発

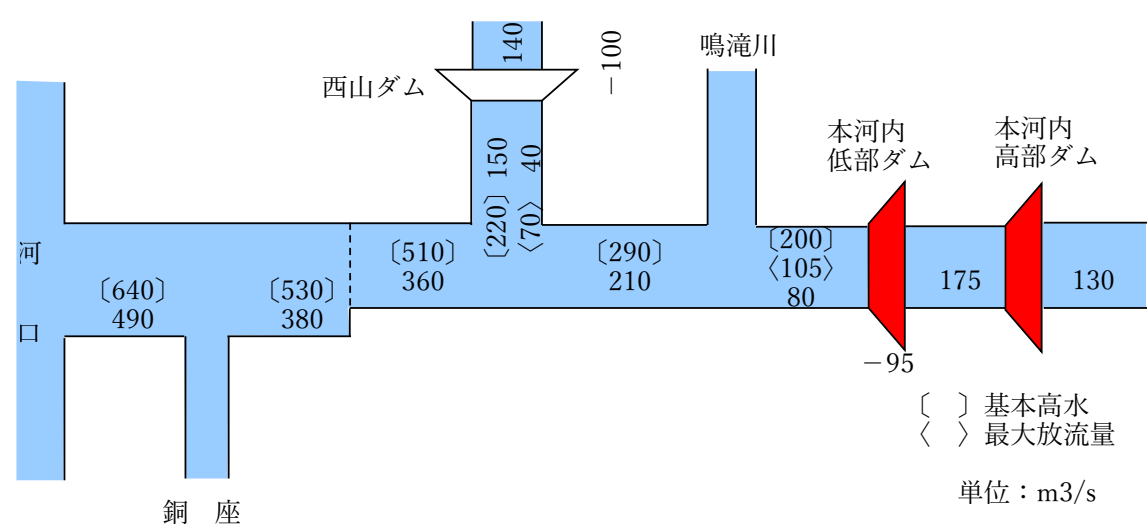
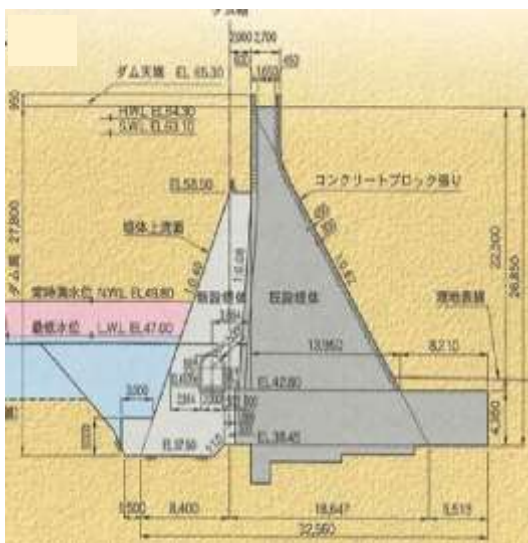
本河内低部ダムは、これまでの水道専用ダムに洪水調節機能を追加するために、洪水吐きを新設しました。新設洪水吐きは堤体に影響の少ないトンネル式洪水吐きを採用し、また、貯水容量を確保するために貯水池の掘削を行いました。



本河内低部ダム上流側写真 (左) 再開発前、(右) 再開発後 既設堤体の上流面に新設堤体を打設し増厚することで安全性を確保し、下流面全体の景観保全を行いました。



洪水吐きは、日本初の洪水吐き形式である「竪坑型トンネル式洪水吐き」を採用し、堤体下をトンネルにより流下させることにより、堤体の保全を図りました。



本河内低部ダムでは長崎大水害時の雨での最大流入量 140m³/s をカットし 80m³/s を下流に流します。